

平成 30 年度南部町教育行政主要施策の点検・評価【人権・社会教育課】

教育方針・主要な施策	人権・社会教育課	H30 点検・評価委員会の意見（・）と質問（○） 質問については、事務局回答としています。
<p>5. 社会教育等関係施設を活用し、学び合い、つながり合う社会教育活動の充実に取り組みます。</p> <p>(1) 「はんどん楽校」の充実</p> <p>(2) 公民館活動の発信と地域への学びの還元</p> <p>(3) 他地域との交流や働く世代への学習機会の提供等新たな学びの創造</p> <p>(4) 図書館ボランティアによる図書館づくりの促進</p> <p>(5) レファレンス強化と大人の図書館の拡充</p>	<p>【成果】</p> <p>30年度は、7教室（パティシエ（えぷろん、おおくに）、ニッポン、シゼンアソビ、テシゴト、ケイオン、おわらいラクゴ）の募集に対し、計37名の参加があった。6月に入楽式を行い、それぞれ年間約10回開催した。児童は、指導者であるはんどん先生や保護者を含めたサポーターなどの地域と大人と共に、学校では体験できない学びを通して、進んで取り組む力や最後まで頑張る力を磨いた。また、各教室では、西伯小、会見小、会見第二小の児童が学校の垣根を越えて交流し、高学年が低学年を指導したり、子ども同士で支え合ったりする姿も見られた。</p> <p>4月のさくらまつりでは、教室で作ったハーバリウムなどの手仕事作品、町内で撮影した写真などの展示を行い、物販ブースでは自分たちで作ったお菓子や炊き込みご飯などの販売を通して活動の成果を披露した。来場者への積極的な声掛けやお金の受け渡しなど、子ども同士で協力し、地域の中でたくましく成長する姿が見られた。</p> <p>30年度には次のイベントを実施し、公民館活動のPRを行った。</p> <p>さくらまつり 日程 4月7日～8日 内容 芸能大会、公民館作品展、公民館活動体験コーナー（着物着付け体験、籐細工体験）</p> <p>西部地区町村公民館作品展 日程 9月7日～17日 内容 イオンモール日吉津西館1階において、籐細工教室の作品展示</p> <p>生涯学習作品展 日程 11月9日～11日 内容 公民館教室、高齢者学級、女性学級、はんどん楽校等の活動内容の展示</p> <p>高齢者学級では、西伯小学校で昔遊び交流、ひまわり保育園でもちつき交流を行い地域のこどもたちとの繋がりを深めた。夏休みの子どもを対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「はんどん楽校」は学校ではできない貴重な体験ができる。これは多くの関係者の努力によるものであり、ただただ感謝する。 ・図書館は常に挑戦的な事業展開がなされて好感が持てる。 ・健康寿命を延ばすには、運動より食事よりも読書が大事、であると「NHK AIひろし」で放映されていた。また、本が救えるものが結構大きい、とあった。図書館の果たす役割はとても幅広いと思う。 ・ほっとハートコンサートが新たな取組を始めて2年目となる。国立音楽院を会場とした国立祭、南部中学校を会場とした町民音楽祭は、民間の社会教育機能や施設利用の取組として評価したい。 ・「図書館ボランティアによる図書館づくりの促進」「レファレンス強化と大人の図書館の拡充」は主要施策と言えないのはいか。情報センターの機能を充実させてほしい。町の将来像を考えながら、図書館の役割を考えてほしい。 ・図書館については、司書が日々の業務に精一杯の様子を感じる。新しい業務を創造するゆとりも大切であり、精選も検討してほしい。

とした事業では、公民館教室の協力のもと、様々な体験教室を開催できた。

生涯学習講座として7月に平和演劇を、11月に「笑って元気！矢野大和口演会」を開催した。また、ことぶき大学、ひょうしぎ学級の連携講座として、6月に「エスペランサ人権コンサート」に参加し、新たな参加者の獲得につながった。

図書館応援団菜の会は毎月の図書整理日に作業のボランティアをして頂いたり、大人の図書館の際には、カフェコーナーの運営をして頂いている。また、「広報なんぶ」や「議会だより」の朗読ボランティアなどもして頂いたりしている。レファレンスの件数に関しては増加したわけではないが、県立図書館の取組みで農業に特化したデータベースであるルーラル電子図書館が使用可能になった。このことはレファレンスに対する対応の飛躍的進化であると言える。大人の図書館は、30年度は5月から10月まで6回開催することが出来た。ミニ講演やミニコンサートも行い、好評を得た。

30年度は全体としては個人貸出冊数が大幅に伸びた。これに伴って、町民一人あたりの貸出冊数も、29年度の8.3冊から、8.9冊に伸びた。とりわけ、天萬図書館での貸し出しが増えている。これは、大人の図書館などのイベントが功を奏したものと思われる。また、来館困難者への対応として丸合に返却ポストを設置できたことも多少の影響があるかも知れない。

【課題】

さいはく分館の休館期間中に、これまでの利用者が変わらずに生涯学習を続けられるよう、代替場所の提供や事業の内容の面で工夫が必要である。

はんどん楽校では保護者や地域の方の協力を得られる教室があり、子どもたちだけでなく、参加した大人にとっても子どもとのふれあい方や地域との関わり方の面で学びとなっている。今後も公民館自主事業への協力が得られる人材の発掘、育成の取組みを進める必要がある。

高齢化により公民館教室等の参加者が減少傾向にある。高齢社会の到来に向けてどのような人生を送るかが重要課題となっていく中、町民一人ひとりの生活がより充実したものとなるよう、魅力ある事業展開推進に向けて検討していく。

	<p>葉の会もメンバーの固定化がすすんでおり、この取り組みを横に広げていく努力が必要である。</p> <p>ルーラル電子図書館についても言えることだが、図書館が資料相談(レファレンス)を行っていること自体あまり知られておらず、宣伝不足である。大人の図書館については、更に工夫を凝らし、図書館が「居場所」であるという認識を広めていきたい。個人貸出冊数は両館あわせて 6,000 冊近く伸びたが、利用者数は 1,300 人程度の伸びにとどまった。このことは一人の利用者が多くの本を利用しているということであり、今後は利用者の拡大に努めていきたい。その一環として暮らしに役立つ図書館という視点から農業に特化したデータベースである「ルーラル電子図書館」の利用説明会の開催を 31 年度に計画している。</p>	
<p>6. 地域振興協議会と連携しながら、青年団体を核とする町づくりや地域課題の解決に取り組みます。</p> <p>(1) 地域振興協議会との連携</p> <p>(2) 高校生サークル及び新青年団の活動支援</p> <p>(3) 社会教育主事の養成</p> <p>(4) 社会教育委員のスキルアップと地域還元</p> <p>(5) 子ども会及び青少年育成町民会議の</p>	<p>【成果】</p> <p>29 年度末に各地域振興協議会をまわり 30 年度の青少年育成関係事業の日程等の聞き取りを行い一覧にまとめた。西伯地区では西伯小学校と 5 つの地域振興協議会と教育委員会との 3 者懇談会も行なわれ、日程の調整も行うことができた。地域振興協議会行事にも高校生サークルを中心に参加することができた。(東西町さつき祭、法勝寺地区敬老会、南さいはく米づくり交流等) 年間を通して活動支援を行うことができた。</p> <p>【高校生サークル】</p> <p>会員数：36 名 活動数：72 回 参加人数：381 名 (のべ人数)</p> <p>主な活動：国際交流事業、教育委員会行事への参加・協力、地域の祭りへ出店、小中学生に対してメディア啓発活動 等</p> <p>【青年団】</p> <p>会員数：32 名 活動数：40 回 参加人数：193 名 (のべ人数)</p> <p>主な活動：米づくり及び成人式への協力、教育委員会行事への参加・協力、地域の祭りへ出店、高校生サークルのサポート 等</p> <p>社会教育主事の養成については、行政職員の派遣はできなかったが、小学校教諭 1 名を A 日程へ派遣した。</p> <p>年間 5 回の会議を開催し、事業の見直し等について意見をいただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生サークルや新青年団の活動が今後さらに自主的な活動になり、メンバー一人ひとりが地域の中で進んで活動する姿を期待する。 ・子ども会及び青少年育成町民会議の見直しと再組織化を重点課題としてほしい。 <p>○社会教育主事の養成に当たり、小学校教諭 1 名が派遣されているが、現在、どんな役割を果たしているのか。これからどう活躍していくのか。</p> <p>→(事務局回答) 地域に開かれた学校を推進していくために、学校教育の中に社会教育の視点を取り入れる役を担っている。また、地域連携担当教員の職を担う者として学校と地域とのパイプ役を現在果たしている。今後その職務を全校に広げていきたい。</p>

<p>見直しと再組織化</p>	<p>スキルアップとしては、生涯学習実践道場や県の振興大会、中四国大会への参加を通して、基礎的な知識を得るだけでなく、先進的な取組みを学んだ。地域還元としては、学校教育との連携を意識し、会見小学校のセカンドスクールへ協力した。</p> <p>子ども会のリーダー合宿、青少年育成町民会議として地域振興協議会への青少年育成活動費補助金の交付等、例年通りの取組みを行うことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>行事日程の調整だけでなく、行事やイベントを開催することが目的にならないように、社会教育のスキルを伝える取組みを進める。</p> <p>5年後10年後の団体の自立と継続を見据えて、主体的な活動が展開できるように核となる人材の育成に取り組む。</p> <p>行政職員を派遣できるよう、分割受講も含めて計画的に派遣者の人選を行う。</p> <p>社会教育委員が主体となつての活動の展開には至っていない。地域課題の把握と社会教育委員のスキルアップに努めると共に、社会教育委員の認知度を高める取組みを進める。</p> <p>子ども会及び青少年育成町民会議の活動に高校生サークルや青年団の育成も視野に入れることで、組織の見直しと連携を進める。</p>	<p>○「社会教育のスキルを伝える取組み」とあるが、これからの方向性として社会教育は地域振興協議会が担うことになるのか。</p> <p>→(事務局回答) 全ての組織や団体に社会教育の一翼を担ってもらえるように教育委員会としても仕掛けをしていく。しかしながら、住民の方と直接関わる機会が多い、地域振興協議会には特に生涯学習の理念に基づいた取組みを期待しているので、連携を強化したい。</p> <p>○社会教育委員の主体的な活動として、どのような活動があるか。</p> <p>→(事務局回答) どのような活動ができるのかを社会教育委員自身が主体的に考えていくことが大切である。家庭教育についてのリーフレットを作って自分たちの手で配ったり、無線放送をしたりといった主体的な活動をしておられる島根県吉賀町への視察研修を実施し、ヒントを得る。</p> <p>○会見小学校のセカンドスクールとは、どのようなものか。</p> <p>→(事務局回答) 5年を対象に大山青年の家で取り組んでいる学校行事である。繰り返し取り組むことで失敗を成功に変える、諦めない心を育てたいという目的で3泊4日の日程で行っている。野外炊事や仲間づくりを目的としたゲーム、座禅体験などがある。社会教育と関連させ、CS委員、社会教育委員会の方に協力をいただいている。</p>
-----------------	--	---

<p>7. 里地里山に学びながら、郷土の歴史や文化を保存・継承し、町づくりや地域づくり、ふるさとの誇りづくりに活かします。</p> <p>(1) 法勝寺電車の有効活用</p> <p>(2) 各種文化財保存会活動支援の充実</p> <p>(3) 祐生出合いの館発信力の強化</p> <p>(4) 指定文化財の維持管理</p>	<p>【成果】</p> <p>法勝寺電車の文化的価値を広く伝えるため、さくらまつりで電車公開を実施した。8月には20名の参加で電車道ウォークを開催、ウォーク後、電車の清掃も行うことができた。</p> <p>小松谷盆踊保存会の運営により、とっとり花回廊で開催される町民花火大会と同日に盆踊り大会を開催することができ、昨年に引き続きふるさとの盆踊りを広く知っていただく機会を持つことができた。</p> <p>祐生出合いの館では、清水寺貫主揮毫の「今年の漢字」(複製)の展示に合わせ、町内小学生の「家族に贈る漢字一文字」の展示を行うなど、多くの企画展・特別展を実施した。ツアーによる誘客により、入館者数が伸びている。</p> <p>県指定文化財の「金田瓦窯跡」の発掘調査を行うことができ、窯の年代や前庭部の状況など明らかにすることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>法勝寺電車の保存活用について、保存会(仮称)の立ち上げができていない。</p> <p>祐生出合いの館は施設自体の老朽化が目立ち、修繕箇所が増えている。</p> <p>文化財の管理の幅が多岐にわたり(埋蔵文化財から特別天然記念物まで)、専門性もあるため、対応に苦慮することが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法勝寺電車は近代文化遺産ではあるが、限定的なイベントに限り車内での喫茶店など設定するなど冒険であろうか。 ・祐生出合いの館の発信力は充分発揮されていると評価したい。そして、魅力的なインフォメーションであると思う。 <p>○「家族に贈る漢字一文字」の今年度の企画はどのような内容であるか。学校教育のカリキュラムに入れるのか、社会教育の取組として行うのか。</p> <p>→(事務局回答)小学校6年児童と保護者を対象に実施する。学校教育のカリキュラムには入れないが、児童への趣旨説明や用紙等の配布、回収を担当・学校に協力をお願いしている。</p>
<p>8. スポーツ環境の整備を図るとともに、スポーツを通じた仲間づくり、健康づくりを推進します。</p> <p>(1) 年少期のスポーツ環境の充実</p> <p>(2) 体育協会の見直し</p> <p>(3) 中学校部活動と総</p>	<p>【成果】</p> <p>年少期のスポーツ振興策の方向性の一つであるスポーツ少年団の総合型地域スポーツクラブジュニアチームへの移行を行うことができ、年少期のスポーツ環境の充実が図れた。</p> <p>体育協会の見直しについて、スポ net との協議や素案を立案し、それについて課内で協議を行い、方向性の確認ができた。</p> <p>「今後の部活動を考える会」を2回実施。総合型地域スポーツクラブの活用についても現時点では難しいが、方向性の一つとしての共通認識を行った。</p> <p>【課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブスポーツに属していない子ども達に、スポーツが楽しめる場所の提供を望みたい。 ・中学校の部活動がどう充実していくのか興味がある。体育協会の見直しや総合型地域スポーツクラブの連携強化に期待している。 <p>○中学校部活動と総合型地域スポーツクラブの連携は可能なのか。</p> <p>→(事務局回答)解決すべき課題が多く、現</p>

<p>合型地域スポーツクラブの連携強化</p>	<p>体育協会の見直しについて、体育協会理事会を開催し、素案をもとに検討を行い、令和3年度の改組を目指す。</p>	<p>時点では難しいが、今後も検討を進めていく予定である。</p> <p>○体育協会の見直しで、素案をもとに検討と記載されているが、素案はどのような内容であるか。</p> <p>→（事務局回答）現時点では、課内段階での素案であり、理事会等での議論の後に、ご提示させていただくことができると考える。</p>
<p>9. 人権感覚を磨き、身の回りの差別や不合理に気づく地域学習、行動化につなげる啓発活動の充実に努めます。</p> <p>(1) ミカエルセミナーの充実</p> <p>(2) 地域振興区別人権学習の充実</p> <p>(3) 町内企業施設研修の支援</p> <p>(4) 町民人権意識調査及び実態調査の実施分析</p> <p>(5) 人権総合計画及び実施計画の策定</p> <p>(6) 町人権会議の取り組み充実・強化</p>	<p>【成果】</p> <p>2月の研究集会を人権教育、啓発活動の1年間の総括と位置付けているため、年間の人権研修を見直し、ミカエルセミナーの回数を6回から4回とした。現地に学ぶことを目的としたミカエルバスツアーや小学校6年生、中学生とともに学ぶオープン講座として「みんなの同和問題講演会」を実施し、多くの参加者があった。参加された方のアンケートから、多くの気づきがあったことがわかった。</p> <p>地域の人権学習は、地域振興協議会、人権学習推進委員と連携しながら、地域ごとに工夫された学習活動が実施できた。小地域での人権学習の機会も増えており、住民が主体となった学習をすすめることができた。「本人通知制度」の登録をすすめるための啓発活動を継続して実施できている。</p> <p>町民人権意識調査を9月に実施し、16歳以上の町民の約1割を無作為抽出し、960人の方へ調査票を送付した。387人から回答があり、回収率は40.3%であった。調査報告書を作成し、令和元年7月4日に町民人権意識調査報告会を開催した。</p> <p>差別解消三法を柱にした人権研修を町内の園、学校、行政職員で実施することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>差別解消三法の周知と「本人通知制度」の登録をすすめていくための、継続した取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する事業は丁寧に、繰り返し実施することが必要と思っている。 ・多くの企画がなされ、充実した人権教育が進められていると思う。担当者の熱意も感じる。

	<p>オープン講座や研究集会のアンケートでは、子どもたちや若い世代と共に学ぶ機会を求める声が多くあり、幅広い世代と一緒に学ぶことができる機会をどのように持つか検討していくことが必要である。</p>	
<p>10. これまでの同和教育の歩みを踏まえ、地域や家庭と連携しながら保・小中一貫した人権教育の取り組みをすすめます。</p> <p>(1) 南部町 15 年人権プログラム(ミカエルプログラム)の実践</p> <p>(2) 保小中の保育・授業実践の交流と合同研修の実施</p> <p>(3) 隣保館と連携した地区学習会の充実</p>	<p>【成果】</p> <p>町内の全保育園、こども園、小学校、中学校でミカエルプログラムについてのミニ研修を実施した。ミカエルプログラムに必要な教材を選定した。</p> <p>町教振の研修機会を活用し、ミカエルプログラムに組み込んでいるソーシャルスキルトレーニングを実際に先生方に体験してもらうことができた。</p> <p>地区学習会の現状を把握することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>人権教育担当者会を中心に実践の振り返りを行い、必要に応じて修正していく。プログラムの説明を各園・学校の人権教育主任ができるようになるための研修の機会を設ける。</p> <p>各園・学校での実践と研究を確実に進めることができるように支援していく。</p> <p>地区学習会の目的を改めて見直し、具体的な改善策を協議していく。</p>	<p>・「保」と「小中」の今後のますますの連携に期待したい。</p> <p>○「地区学習会の目的の見直し」について、現状と課題、具体的改善策をどのように考えているか。</p> <p>→(事務局回答) これまで地区の子どもが差別に負けない力をつけるために取り組まれてきた経緯がある。「個人として尊重される権利」「差別されない権利」など人権教育の視点に立ち、今もなお存在する差別を解決するために「差別について正しく知る権利」として学び、ともに差別をなくす仲間づくりなどの取り組みについて、保小中、隣保館等と協議していく。</p>
教育方針・主要な施策	教育委員会事務局	H30 点検・評価委員会の意見(・)と質問(○) 質問については、事務局回答としています。
11. 多岐にわたる教育課題の解決に資する教育委員会事務局、保育園・小中学校及び社会教育施設等の体制(支援態	<p>【成果】</p> <p>南部町教育振興基本計画(第Ⅱ期)を平成 30 年度に策定した。町民に周知を行うとともに、「ふるさとを愛し、志高く、南部町から未来を切り拓くひとづくり」に努めている。</p> <p>「教育協働みらい会議」を年 2 回実施した。「子育て・就学支援」「子どもの安心安全(通学路等)対策」「グローバル人材」について、町長、教育委員の方と意見交換を行った。</p>	<p>・複合施設の完成後は社会教育の在り方も変わってくると思う。利用者層が拡大し、学校や地域との更なる連携やネットワーク化等が加わってくる。専門的職員である司書の質の向上が不可欠になる。その為には地位の安定が重要と考える。</p>

<p>勢)を整備し、教育行政推進体制の充実を図ります。</p> <p>(1) 組織の充実・強化 (2) 主要な教育課題への取り組み</p>	<p>幼児教育・保育専門員の2名配置、特別支援教育コーディネーターの配置、各校区1名のスクールソーシャルワーカーの配置を行い、幼児教育や特別支援教育の充実に努めた。</p> <p>南部町教育の日及び教育月間啓発事業の推進では、10月8日に「教育の集い」を開催した。『南部町教育振興基本計画 第Ⅱ期』第5章 めざす子ども像、社会の姿としてまとめた3つの姿から、「心豊かに共に生きる町づくり」を一つのポイントとして捉え意見交換ができる場を設定した。園・学校関係者、社会教育委員の方に参加いただき、『私の時間・子どもの時間～子どもが育つ時間を考える～』をテーマにシンポジウムを行った。また、東京ベイ・浦安市川医療センター管理者の神山潤先生を招聘し、『「質のよい眠りをとれば睡眠時間は短くても大丈夫」を皆さん望んでおいでですが、それは無理です。』というテーマで基本的な生活習慣の大切さについて講演をいただいた。</p> <p>教育委員県外研修の実施では、9月に西脇市の複合施設見学と市町村教育委員会研究協議会（岡山市）に参加した。また11月には、市町村研究教育委員会協議会（大阪市）に参加し、学力向上や教職員の働き方改革などについて他市町村の教育委員と協議を深めた。</p> <p>【課題】</p> <p>社会教育及び社会体育施設の指定管理では、西伯カントリーパークの施設等の老朽化が進んでいる。利用実績等に応じて、野球場やテニスコートの修繕を行っているが、年次の計画を立て、施設の修繕や管理に対応したい。</p> <p>第Ⅱ期南部町教育振興基本計画に沿った実践を、外部評価を受けながら積み重ねていく。</p>	<p>○教育行政推進体制の充実に向けて「ソサイエティ5.0」の概念はかなり影響するのか。テクノロジーを活用した社会の仕組みづくりはどのようなものを想定しているか。</p> <p>→（事務局回答）今の情報化社会の次の社会としてソサイエティ5.0という新しい概念が示されている。学校教育においてもプログラミング教育が導入され、論理的思考の育成が求められている。社会教育においては、複合施設建設において、図書館の情報センターとしての機能充実も推進していきたい。</p>
---	--	---